

令和7年度 八王子市立第九小学校 学校経営報告書

令和 8 年 3 月 6 日
八王子市立第九小学校
校長 村上 正昭

1 教育活動への取組と自己評価 (A : 十分達成 B : おおむね達成 C : 課題あり)

(1) 確かな学力の育成 C

6年生を対象とした「はちおうじっ子ミニマム（小学校第5学年修了段階の基礎的・基本的な問題）」の結果において、算数の少人数指導や補習教室、1人1台端末の利活用により回を重ねるごとに着実に成果が出ている。一方、全国学力学習状況調査の結果で「算数の授業は好きか」に対する肯定的な回答の割合は東京都の平均と比較して25%低く（国語14%・理科5%低い）、算数の習熟や学習の取組に課題がある。

【表1】はちおうじっ子ミニマムの結果

教科 実施回	国語		算数	
	第1回(4月)	第2回(11月)	第1回(4月)	第2回(11月)
20問 正答(満点)	1(2%)	15(29%)	2(4%)	8(16%)
16~20問 正答	16(29%)	31(60%)	13(24%)	19(38%)
11~15問 正答	32(57%)	18(35%)	25(45%)	13(26%)
6~10問 正答	8(14%)	2(4%)	16(29%)	16(32%)
1~5問 正答	0	1(2%)	1(2%)	2(4%)
0問	0	0	0	0

(2) 教育活動の理念の実現 B

①「安全・安心・信頼」を基盤とし、「認め合い・学び合い」を中核とした「いきがい」の創出

4~6年生の学校評価「あなたは、学校で毎日楽しく生活することができていますか」(12月)に対する肯定的な回答の割合は、80%と他の質問項目に比べて比較的高く、学校を楽しみにしている児童が多い。6年生を対象とした、全国学力学習状況調査の質問項目「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定的な回答の割合は、84%と東京都の平均71%と比較しても高い。教職員や保護者・地域の方があたたかく関わっている成果の表れである。

②不登校対応

令和4年度から不登校(30日以上欠席)児童数は約30名であり、学級集団づくりと学習活動の工夫、保護者・関係機関との連携、校内別室「けやきゅうの部屋」等の居場所づくりに取り組んでいる。

【表2】年間の欠席90日以上の児童数

年度	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
児童数	4	3	2	7	7	8	14	16	7

③体力向上

東京都統一体力テストの各学年の結果において、8項目中5項目で概ね全国平均に近い記録が出ている。「体育の授業は楽しいか」に対する肯定的な回答の割合は約9割以上であり教職員の指導の工夫の成果である。一方、20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳びの3種目が全学年において低い傾向にある。

2 今年度の重点目標への取組と自己評価 (A : 十分達成 B : おおむね達成 C : 課題あり)

(1) 認め合い・学び合いの場づくりによる、いじめの防止・不登校状況の改善 C

①週1回の学校いじめ対策委員会の開催やふれあい月間アンケート・普段の見とりなどの実態把握に基づき、いじめの未然防止、早期発見、認知、対応策について全教職員の共通理解及び組織的な対応を図った。学校評価「(6)学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応などに組織的に取り組んでいる」に対する肯定的な回答の割合は79%と他の項目に比べて低く、家庭との連携も不可欠である。

②保護者・地域の方々とともに校内別室「けやきゅうの部屋」の持続可能なあり方を検討し、まとめた。

③けやき教室、スクール・カウンセラーと連携し、特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会を定期開催し、特別な支援を要する児童の共通理解を図り、実態に即した指導を推進した。学校評価「学校は、特別支援教育に取り組んでいる」に対する肯定的な回答の割合は85%と相対的に低い。

(2) ユニバーサル・デザインの視点に基づく授業改善、検定・コンクール等への挑戦による学力向上 B

- ①「楽しくて力の付く・一人でも多くの子が参加できる授業」をテーマに、2学期に外部講師を招いた研究授業3回（2・3・6年）、全教職員2回以上の授業公開を実施し、授業改善に取り組んだ。
- ②八王子市学力定着度調査や「はちおうじっ子ミニマム」の結果を分析し、ドリル型学習コンテンツの活用や算数補習教室の計画的な実施により、表1のとおり第2回の結果が向上した。
- ③八王子市教育委員会主催「図書館を使った調べる学習コンクール」に111名が出品し「学校賞」を受賞。学校運営協議会・漢字検定実行委員会の共催「漢字検定」に、50名がチャレンジした。また、校内・外で受けた表彰を全校朝会で紹介し、校長室前の「おめでとうの木」に掲示した。一方、4～6年生の学校評価「あなたは、読書にすすんで取り組んでいますか」（12月）に対する肯定的な回答は65.8%と他の質問項目と比べて顕著に低く、本に親しむ活動のより一層の推進が必要である。

(3) 地域教材の開発・充実、人材の発掘・連携 A

- 1・2年生はビートレインズチア、3・4年生はタグラグビー、5・6年生はアルティメット、1～4年生はエバリーのミニコンサート、4年生は人権擁護委員による人権教室や環境課による環境学習、5年生は農業体験、6年生は職業講話などを通して地域人材や地域教材から学ぶことができた。

(4) 情報発信による地域に開かれた学校づくり、小中一貫教育の推進 B

- ①代表委員会と生徒会による挨拶運動、夏休みの学習教室、青少対主催クリーンデー、6年の学校体験、教職員の交流により積極的に連携することができた。
- ②毎日、必ず学校ホームページ(HP)の学校日記・給食を更新。学校評価「保護者に対して、学校だよりやHPなどで適切に情報を提供している」に対する肯定的な回答の割合は95%と高い結果が出ている。

3 次年度以降の課題と対応策

(1) 「九小 九つの取組」に対する子どもの主体的な取組による一層の充実

- 令和7年度に、「九小 九つの取組」について、重点的に取り組む月や行事を設けて全校朝会の講話や学校便り等で意図的に発信したり、今月の歌を新たに設けたりするなど更新してきた。次年度は、各委員会や学級活動など、子どもたちが「九小 九つの取組」を具体化できるように取り組ませ、学校づくりに主体的に参画させていく。

	「 」…九つの取組 ◆…具体的な児童の姿	重点月・行事
あ	「あいさつ、ありがとう、あとかたづけ」◆感謝・あいさつ・あとかたづけのできる子	4・9・1月 学期始め
い	「いれて、いいよ、いっしょにやろう。(命を大切に)」◆自分の居場所をつくれる子	
う	「うたごえが、いっぱい」◆友達と合唱や合奏を楽しむ音楽好きな子	6・10月
え	「絵が好き、絵になる」◆創作活動や図画工作・美術が好きな子	7・12・3月
お	「音読・暗唱・第九小の100冊」◆読書や音読、暗唱に励み、語いが豊かな子	11月 読書週間
か	「書いて考える。考えて書く。」◆自分の考えについて書くことを通して表現できる子	7・8月
き	「聞いて共感する。共感して聞く。」◆相手の立場にたって共感的に聴く子	ふれあい月間
く	「苦しみに耐える粘り強さ」◆粘り強く努力する子	2月 なびひ間
け	「健康な生活習慣、早寝・早起き・朝ご飯と外遊び」◆健康な生活習慣を身に付ける子	5月 運動会

(2) 校内研究を活かした学力向上

- 「楽しい・分かる・安心な授業づくり」をテーマに、研究授業や相互授業参観等を通して、全児童が参加できる授業改善に全教職員で取り組むことで、算数をはじめ学習に対する肯定的な意識を高める。

(3) 社会に開かれた教育活動の推進

- 地域人材・資源の活用として、保護者・地域の方による読み聞かせ、地域防災訓練、1年生のサポーターや保育園等とのかかわり、2年生のまち探検、3年生の市や地域の施設での見学、4年生の環境や福祉の学習、5年生の農業体験、6年生の職業講話などの学びを位置づけ、地域を愛する心情を育む。
- 社会の力を活用し、文化庁事業「芸術家派遣（二胡）」やタグラグビー、アルティメットなど、その道の専門家と触れ合い、学ぶことができる機会を大切にする。

(4) キャリア教育の推進

- 第二中学校地区のよさを活かし、「九小版 桑都物語」をテーマに生活科と総合的な学習の時間を柱に、教科横断的な学習を充実させる。その成果として、図書館を使った調べる学習コンクールに出品する。

(5) 安全・安心な学校づくり

- いじめやSNSによるトラブルの未然防止に重点を置き、これまで以上に家庭や関係機関と連携して指導や対応を進めていく。
- 関係機関や地域人材と緊密に連携し、校内別室「けやきゅうの部屋」の持続可能な運営を実現する。